

学校教育目標	社会で通用する基礎・基本を磨き、 よりよい自分、よりよい学校、よりよい社会を目指そうとする生徒の育成
--------	---

a ミッション 【地域・社会における 本校の使命・存在意義】	地域が誇る学校づくり ～ 地域からの期待に応え、期待を超える学校づくりを ～	a ビジョン 【実現しようとする 本校の将来像】	○オール因島南(園・小・中及び家庭、地域)で、連携・協働し、生徒を育む学校 ○学校・地域(ふるさと)を誇りに思い、自分の生き方を見つめ直すことに繋げる学校 ○常にスパイラル・アップを目指し、向上心を持ち、思いを実行に移せる学校
--------------------------------------	---	--------------------------------	---

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h	i	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					達成	達成	達成	評価		イ	ロ	ハ		
自分自身で、また、 まわりと力を合わせて、 「よりよい自分」、 「よりよい学校」、 「よりよい社会」を 創り出そうとする 【育成する資質・能力】 「高い志と チャレンジ精神」	○生徒会の活性化による 生徒の自治力の向上	◎生徒会執行部の育成による 意識とリーダー性の向上 ■各行事における生徒会の主体的な 「場」の設定 ■生徒会各委員会の主体性の向上 ■生徒会執行部による学校力向上に 向けた提案力の向上	「自分達の学校を自分達で 更によくしていこう」とし ている生徒の割合 生徒会各委員会の活動 は、自分達の学校生活をよ くすることに大きく貢献し ていると感じている生徒の 割合	80%	77%	71%	89%	B	「生徒会の各委員会の活動は、自分達の学校生活をよ くすることに大きく貢献していると感じている。」 「自分達の学校を自分達で更によくしていこう」 とする2学期の生徒割合が両方とも1学期から低下し た。生徒会が新体制になって2年生には意欲的な面が 見られるので、取り組みを進める。また、継続してい るかもしれないことに対して、諦めの気持ちがわいてい るかもしれないので、各担当で改善案を検討して取 り組みを進める。	○			生徒会役員に学校の評価活動に意見が言えるような力がつ くと素晴らしいですね。 「自己肯定感」「将来の夢・希望・目標」が持てる生徒を 育てる取組を継続して行い、中学校生活に充実感を味わわ せ、次のステップに挑戦する意欲を持たせてください。	新生徒会となり2年生が意欲を持って生徒会活動を進めてい く姿勢があるのでそれを大切に。それとともに教職員が いけないことをしている生徒については毅然として指導 する姿をみせることで、諦めず「学校を更によくしてい こう」とする意欲を伸ばしていく。
	○向上心・実行力の育成 ■「プラス・ワン」の日常的な・評 価・励ましを通した意識化の向上	◎向上心・実行力の育成 ■「プラス・ワン」の日常的な・評 価・励ましを通した意識化の向上 ■地域や学校、集団への「貢献」を 意識したボランティア活動の活 性化 ■「『走る』学校文化」の更なる充 実・「10分間走」への意識の向 上・部活動の練習における「走 る」練習の充実	「プラス・ワン」を達成で きるように努力している生 徒の割合 地域や社会のために何か役 立つことをしようと意識し 行動している生徒の割合 「10分間走」など、自分 の目標を立て、意欲的に 「走る」ことを意識して 走っている生徒の割合	90%	82%	74%	82%	B	「プラス・ワン」のクラス掲示やステップアップ記入 により、日常から目的意識や実行力の育成につなげ るよう取り組んだが、2学期の結果は1学期より低下 した。継続性を持たせるよう取り組む。 8月に部活ごとの地域貢献活動や地域の祭り参加など の取り組みを実施した。また、地区別の地域貢献活動 を実施し、今後も計画されている。単なる活動に終わ らせず目的意識を持って取り組むようにする。 11月中旬から毎日10分間走を実施して全生徒が参加 した。中体連の駅伝大会に選抜チームを作って参加し たり、地元の駅伝大会に全校体制で参加するようにな った。もっと目的意識を持たせるように取り組む。	○			「プラス・ワン」のクラス掲示やステップアップ記入 により、日常から目的意識や実行力の育成につなげ るよう取り組んだが、2学期の結果は1学期より低下 した。継続性を持たせるように取り組む。 8月に部活ごとの地域貢献活動や地域の祭り参加など の取り組みを実施した。また、地区別の地域貢献活動 を実施し、今後も計画されている。単なる活動に終わ らせず目的意識を持って取り組むようにする。 11月中旬から毎日10分間走を実施して全生徒が参加 した。中体連の駅伝大会に選抜チームを作って参加し たり、地元の駅伝大会に全校体制で参加するようにな った。もっと目的意識を持たせるように取り組む。	部活(後輩を迎えるにあたって)、立派な、修学旅行、卒業 に向けたプラスワンづくりと話し合い活動を充実させる。 3学期も太鼓クラブ・吹奏楽部を中心に敬老会や地域の祭等 の行事に協力し、地域の活性化に貢献している。 地区別の地域貢献活動を地域の方との十分な連携を図り、地 域の要望に応える活動にすることで、生徒の有効性の向上に つなげる。 駅伝の選抜チームを作り、中国中学校駅伝への出場を果た すことができた。10分間走を11月中旬から毎日実施し ている。生徒リーダーの声かけなども新たに。学校の「走 る」文化が地域を元気にすることを旨とする。 いんのみしま駅伝大会に全部活が参加し、「走る」ことを学校の 文化としてさらに高めていきたい。
	○現状に満足することな く、常に向上心を持つ て、思いを実行に移そ うとする生徒の育成	◎授業改善の推進 ■「学びに向かう意欲」を向上させ るための授業の工夫を意識した 授業改善の推進 ■「課題発見・解決学習」の単元開 発・実践による授業改善の推進	「授業の課題について『な ぜだろう』『やってみよう』 』と思う」生徒の割合	90%	71%	70%	78%	C	12月から1月にかけて公開授業研修や校内授業研修 を計画的に進めた。研修を進めているが、不十分な ところを検証し主体的で対話的で深い学びになるよう に研修を継続する。授業改善を進める中で授業の課題に ついて「なぜだろう」「やってみよう」と思う生徒を もっと増やす。	○			・「なぜだろう」「やってみよう」と思わない30%の生 徒について、なぜそう思わないのか、生徒の思いを丁寧 に聞いていこうと思います。 各学年で内容の優れた自学ノートを掲示し、家庭学習の意識 を高めることができた。来年度も継続して取り組む	
	○「生きて働く知識・理 解」の育成と「学びの 土台づくり」の充実	◎基礎学力の定着に向けた 指導の徹底 ■「学びのサイクル」の充実・発展 (本時のめあての工夫、家庭学習の 充実) ■「南中タイム(週末とめテスト)」 の内容及び実施方法の見直しと 改善	「できた」「わかった」と 授業で感じている生徒の割 合(全教科平均) 「南中タイムは自分の学習 に役立っている」と捉えて いる生徒の割合	85%	84%	78%	92%	B	研究授業を進めているが、成果と課題をしっかりと検 証し今後に生かすようにする。「できた」「わか った」を授業で感じている生徒をもっと増やす。 南中タイムのやり方を5教科から3教科に減らし、教 え合いの時間を確保するなどした結果、「南中タイム は自分の学習に役立っている」と捉えている生徒の割 合が1学期に比べて2学期は向上した。	○			「学力向上」も着実に成果が上がっていると思います。 「一人一研究」等の取組により、地域への理解、課題を考 える事により、生徒の主体性が養われると思います。 南中タイムとして1時間に実施する教科を3教科にしたり教 え合いや学び合いの時間を確保することで、南中タイムが 「役に立つ」と考える生徒が増加した。今後も家庭学習や南 中タイムや定期試験のサイクルが充実するよう取り組みを進 める。	
学校に、規律と自律、安 心感と充実感があり、生 徒が、生き生きと学校生 活を送ることができる	○生活習慣の改善ときめ 細やかな見取りと対応 による不登校生徒の減 少	◎不登校の未然防止 不登校生徒への支援の充実 ■教育相談・家庭連携・関係機関等 との連携の充実 ・SCとの教育相談委員会の充実 ・SSWの活用による生活改善の 推進 ■生徒理解・安心できる集団づく りの推進(アクセス活用、面談、学級 経営の充実)	中学校生活を要因とする新 たな不登校生徒を出さない 現在不登校生徒の登校日数 の増加(校内適応指導教室 への登校も含む)	0人	0人	1人	92%	B	前年度30日以上欠席した生徒14名のうち、今年度 改善がみられた生徒が1名いる。一方で前年度欠席が 30日未満であった生徒1名の欠席が今年度30日を超 えた。 また小学校時に30日以上欠席した生徒2名が中学校 になり改善が見られた。 常時教室に上がることができない別室登校の生徒が各 学年にいる。時に生徒間のトラブルや心身の不調を訴 えて別室に来る生徒がある。	○			「長期欠席生徒」の課題も学校全体の課題としてとらえ、 取組がなされていることが分かりました。今後も続けてい きたいと思います。 不登校と発達障害の関係について話題になることが多い。 SCやSSWとの連携の中でそうした問題について成果が あれば上げてほしい。	すべて不登校生徒について保護者連携を定期的に行いなが ら取り組みを進めており、保護者には協力的にしてもらっ ている。またSCや市教委などとの関係機関との連携を進めて いる。 常時別室登校や時には生徒間のトラブルや心身の不調を訴 えて別室に居場所を求める生徒もいる。よりよい集団づく りを進めるとともに現状が少しでも改善されるように生徒の心 に寄り添えるように教育相談活動を充実させていく。
	○自らを律するとともに、 学校生活に充実感を見 いだせる生徒の育成	◎生徒指導体制の改善 ■全教職員による指導の徹底、家庭 連携の充実 ■充実感・達成感の向上 (小中連携の推進、生徒主体の活動 の充実) ■挨拶の活性化	「学校や社会のルールを 守っている」と思っている 生徒の割合 「みんなで何かに取り組 み、やってよかったと感じ ることがある。」生徒の割 合 学校でも地域においても 「自分から積極的に挨拶を している」生徒の割合	95%	90%	93%	98%	B	生徒の委員会の取り組みとして呼びかけを行った時 には、生活規律を意識した雰囲気がつくれた。生徒会 の委員会活動と運動し、遅刻や服装に焦点化した取組 を計画的に実践していく。 学習発表会や立派式では頑張る姿が見られ、集団とし てはよく頑張っていると感じることができている。個 として肯定的回答が増えるように目的意識を 明確にさせる。 学級委員会による朝の挨拶練習は実施したが、結果に 反映していない。めざす挨拶の姿を全生徒・全教職員 で共通理解した上で、生徒会の委員会活動と運動し、 挨拶に焦点化した取組を計画的に実践していく。	○			社会の出来事に関する意見を持つ生徒の育成に取り組んで もらいたい。 入学者、卒業式、体育大会などの学校行事での生徒・教職 員の活動の姿は素晴らしいと思います。また、掲示物がす ばらしく生徒・教職員の教育活動の様子がよく分かり成果 が向上しているのがうかがえます。	各委員会が共通のビジョンを持ち、それを共有したうえで、 規範意識の向上を図り、さらにそれがよりよい活動や取組 みできるようにする。 お互いを認め、支え合うことのできる集団づくりを進める。 ・ステップアップや学級日誌などを効果的に活用し日々の積 み重ねができるクラスや学級づくり ・班長会の定期的な実施 めざす挨拶の姿を全生徒・全教職員で共通理解した上で、生 徒会の委員会活動と運動し、挨拶に焦点化した取組を計画的 に実践していく。

【自己評価 評価】
A: 100 ≦ (目標達成) B: 80 ≦ (ほぼ達成) < 100
C: 60 ≦ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【外部評価】
イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: わからない。